

## 情報提供



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所 病弱班 土屋忠之（班長）

# 報告・実践報告

- 報告：石川県立医王特別支援学校 校長 居村 恵子 氏
- 「能登半島地震被災県の特別支援学校から（仮題）」
- 実践報告：熊本県立黒石原支援学校 校長 前川 美穂子 氏
- 「病弱教育の自立活動の実際（仮題）」

# 自立活動について

こころの病気のある  
子供の教育支援

Co-MaMeガイド

— 適応面や心理面、行動面に  
困難のある児童生徒への支援 —

NISE 独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所

# こころの病気の ある子供の教育支援



# Co-MaMe ガイド

— 適応面や心理面、行動面に困難のある児童生徒への支援 —

Co  
Ma  
Me



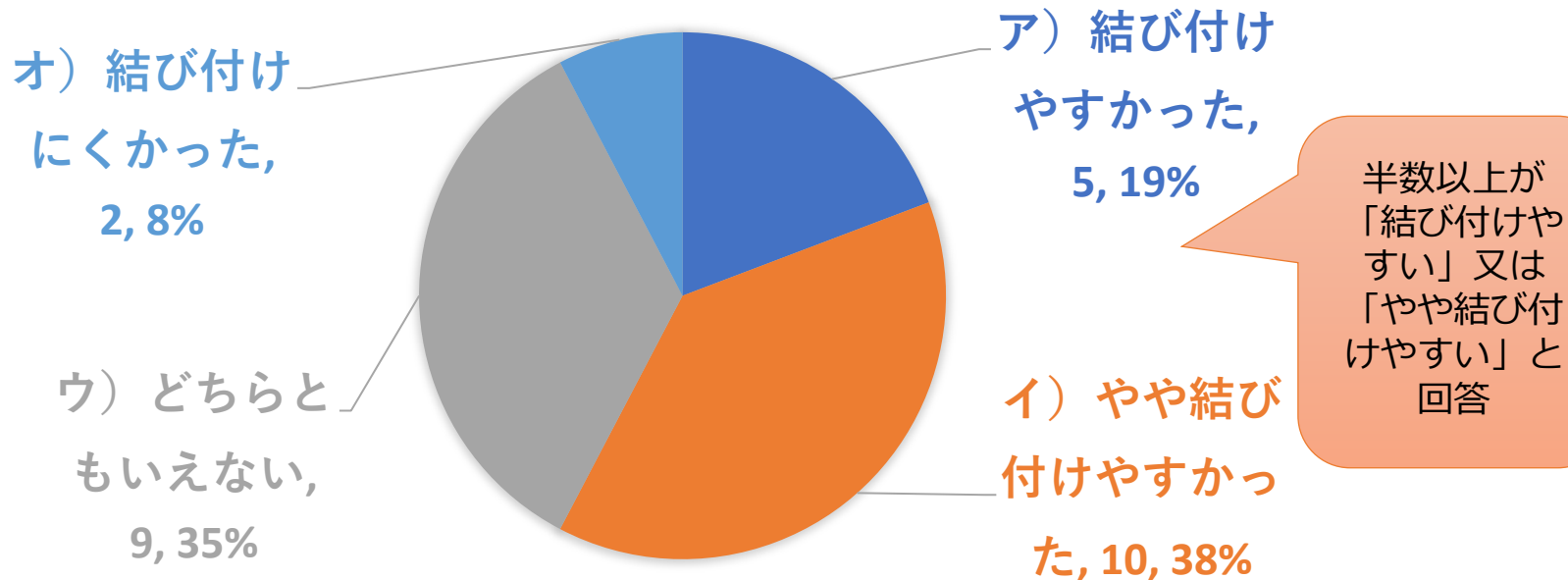
独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所 編著  
NISE National Institute of Special Needs Education

ジアース  
教育新社

ジアース教育新社 発行

# Co-MaMeと自立活動の結びつき

## Co-MaMeと自立活動の結びつき【実態把握】



令和5年度 全病連心身症等研究員会 26校へのアンケート調査から

# Co-MaMe



「Co-」 = 連携して（教員間・関係者間）

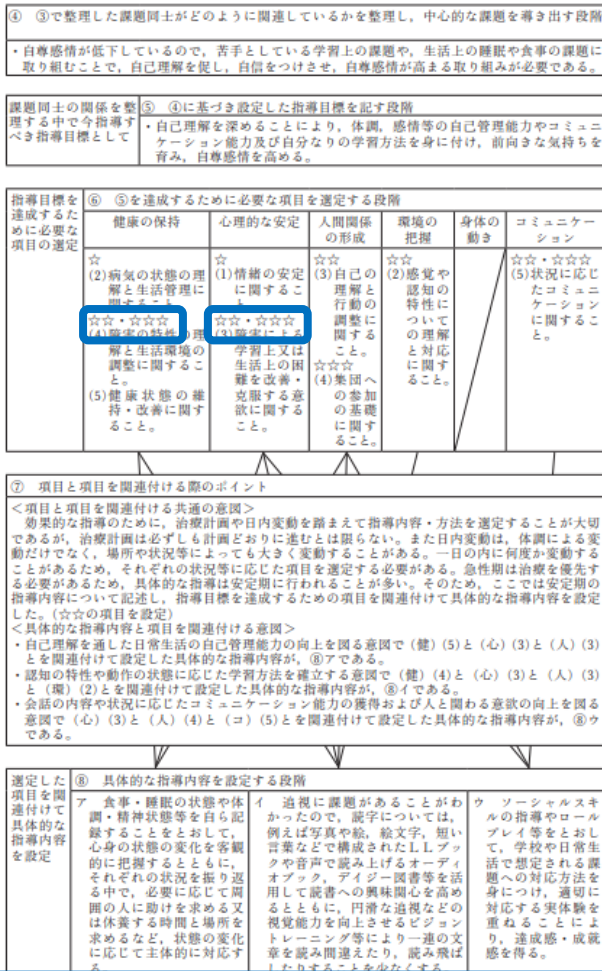
「MaMe」 = まめに（実態把握・支援等）

病気のある子供に共通



# 「実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)」

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(小学部・中学部)、平成30年3月、P144、146 参照



「こまめ」に対応してくれて嬉しいな～

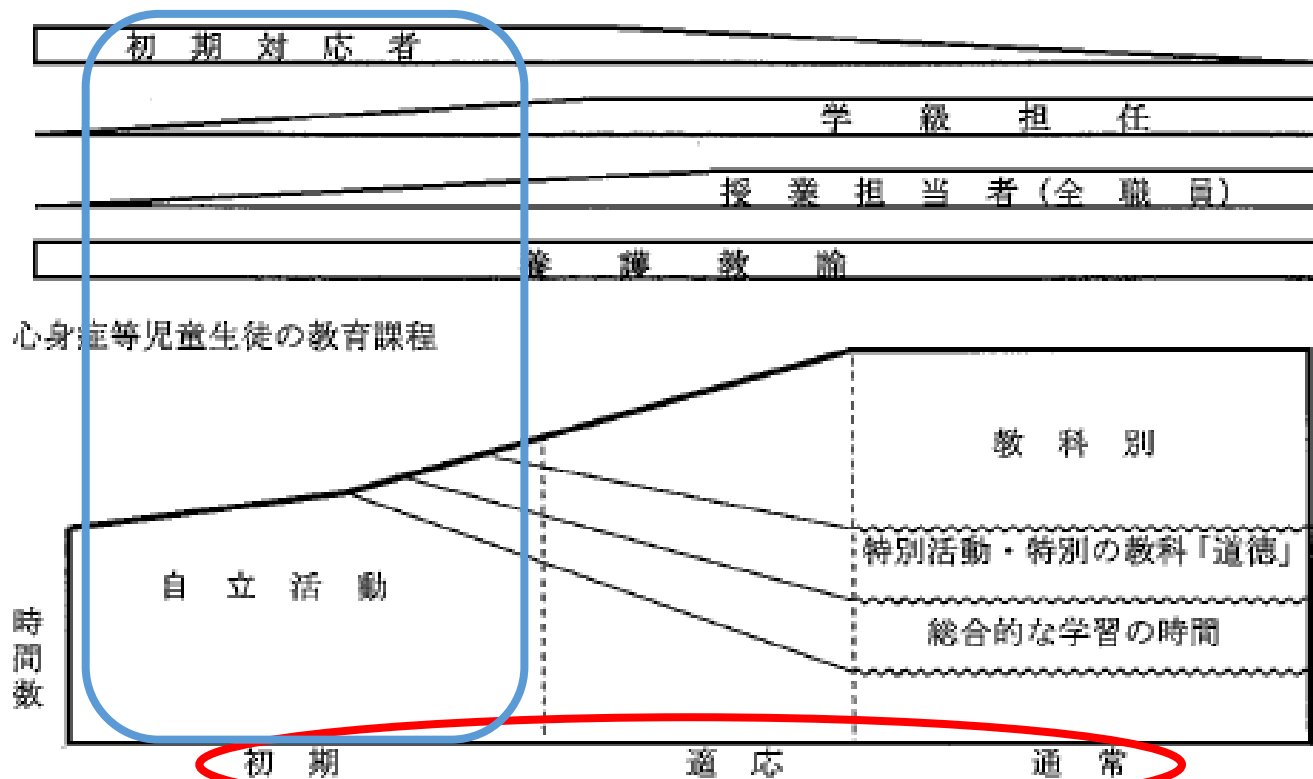


☆ 不調時  
☆☆ 安定期  
☆☆☆ 移行期  
\* 治療ステージや日内変動に応じた指導

☆：不調時(入院初期を含む)、☆☆：安定期、☆☆☆：移行期  
※必要な項目の選定に当たっては、治療ステージや日内変動に応じた指導ができるようにするため記載するが、具体的な指導内容については、安定期にある子どもに絞って記載している。

図9 症例

# 「MaMe」 (まめ) に【実態把握・支援】





# 「MaMe」（まめ）に【時間割・授業時間数】

Co-MaMe  
(こまめ)に  
柔軟に  
できるね!!

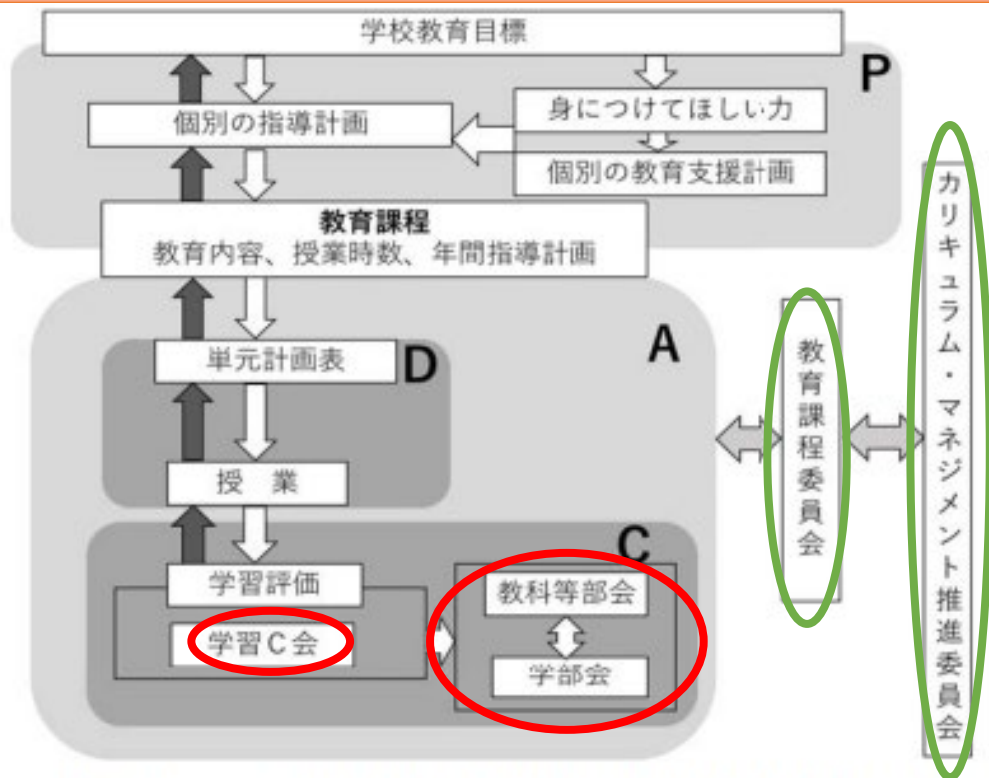


| 中学部 I 型   |          |     |     |     |
|-----------|----------|-----|-----|-----|
| 教科等       | 学年       | 学年  |     |     |
|           |          | 1年  | 2年  | 3年  |
| 各<br>科    | 国語       | 4   | 4   | 3   |
|           | 社会       | 3   | 3   | 4   |
|           | 数学       | 4   | 3   | 4   |
|           | 理科       | 3   | 4   | 4   |
|           | 音楽       | 1.3 | 1   | 1   |
|           | 美術       | 1.3 | 1   | 1   |
|           | 保健体育     | 3~1 | 3~1 | 3~1 |
|           | 技術・家庭    | 2   | 2   | 1   |
|           | 外国語(英語)  | 4   | 4   | 4   |
|           | 特別の教科 道徳 | 1   | 1   | 1   |
| 総合的な学習の時間 | 1.4      | 2   | 2   |     |
| 特別活動(学活)  | 1        | 1   | 1   |     |
| 自立活動      | 1~3      | 1~3 | 1~3 |     |
| 計         |          | 30  | 30  | 30  |

| 中学部 II 型              |          |      |      |      |
|-----------------------|----------|------|------|------|
| 教科等                   | 学年       | 学年   |      |      |
|                       |          | 1年   | 2年   | 3年   |
| 各<br>科                | 国語       | 0~3  | 0~3  | 0~3  |
|                       | 社会       | ☆    | ☆    | ☆    |
|                       | 数学       | 0~3  | 0~3  | 0~3  |
|                       | 理科       | ☆    | ☆    | ☆    |
|                       | 音楽       | 0~2  | 0~2  | 0~2  |
|                       | 美術       | 0~2  | 0~2  | 0~2  |
|                       | 保健体育     | 0~3  | 0~3  | 0~3  |
|                       | 職業・家庭    | ☆    | ☆    | ☆    |
|                       | 外国語(英語)  | ☆    | ☆    | ☆    |
|                       | 特別の教科 道徳 | ★    |      |      |
| 総合的な学習の時間             | 1~1.4    | 1~2  | 1~2  |      |
| 特別活動(学活)              | 1        | 1    | 1    |      |
| 自立活動                  | 1~11     | 1~11 | 1~11 |      |
| わ<br>せ<br>た<br>指<br>導 | 日常生活の指導  | 0~14 | 0~14 | 0~14 |
|                       | 生活単元学習   | 0~10 | 0~10 | 0~10 |
|                       | 作業学習     | 0~6  | 0~6  | 0~6  |
| 計                     |          | 30   | 30   | 30   |

★…特別の教科 道徳は教育活動全体を通じて行う。  
☆…「教科等を合わせた指導」の中で行う。

# 「Co-」 = 連携して【学校全体で】



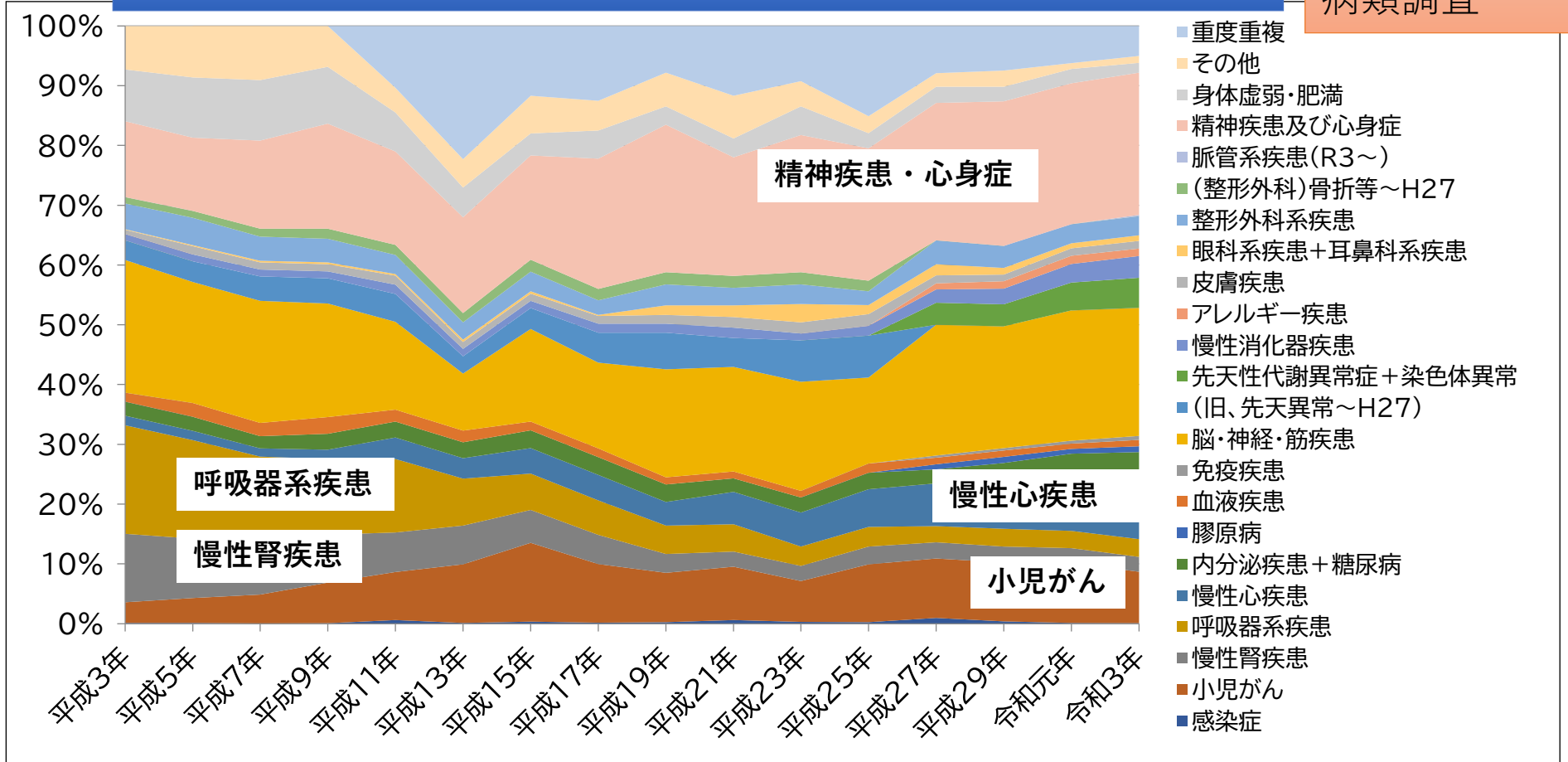
図VI-3-1 本校の教育課程編成に係る各組織とPDCAの関連

特別支援学校の取組：「国立特別支援教育総合研究所(2023)学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究 研究成果報告書」より

# 病弱・虚弱教育を受けている児童生徒における各病類の経年的な相対的割合の変化

全国病弱虚弱教育研究連盟 「令和3年度全国病弱虚弱教育に関する病類調査」より

全病連による  
病類調査



# 小学校学習指導要領・中学校学習指導要領

- 小学校学習指導要領又は中学校学習指導要領では、特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合に、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す**自立活動**を取り入れること。」と示されている（特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より）。
- 令和3年2月に文部科学省から発出された「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」において、**小・中学校の特別支援学級や通級による指導**を担当する教師に求められる専門性として「**自立活動を実践する力**」等が挙げられている。

# 令和5年度 病類ごとの児童生徒の在籍者数

全病連による病類調査

全国病弱虚弱教育研究連盟 「令和3年度全国病弱虚弱教育に関する病類調査」より

校舎内にある病弱・  
身体虚弱特別支援学  
級の方が多い

|            | 感染症 | 小児がん  | 慢性腎疾患 | 呼吸器系疾患 | 慢性心疾患 | 内分泌疾患 | 膠原病 | 糖尿病 | 先天性代謝異常症 | 血液疾患 | 免疫疾患 | 脳・神経・筋疾患 | 慢性消化器疾患 | 染色体異常症 | アレルギー疾患 | 皮膚疾患 | 眼科系疾患 | 耳鼻科系疾患 | 整形外科系疾患 | 脈管系疾患 | 精神疾患及び心身症 | 身体虚弱・肥満 | その他 | 重度重複 | 合計    |
|------------|-----|-------|-------|--------|-------|-------|-----|-----|----------|------|------|----------|---------|--------|---------|------|-------|--------|---------|-------|-----------|---------|-----|------|-------|
| 特別支援学校     | 1   | 248   | 37    | 46     | 124   | 33    | 12  | 11  | 36       | 11   | 10   | 524      | 52      | 85     | 13      | 15   | 2     | 0      | 86      | 3     | 1,317     | 48      | 18  | 291  | 3,023 |
| 特別支援学校(訪問) | 1   | 119   | 5     | 8      | 14    | 4     | 5   | 0   | 5        | 7    | 4    | 242      | 10      | 30     | 1       | 5    | 0     | 0      | 34      | 1     | 111       | 0       | 17  | 120  | 743   |
| 特別支援学級     | 6   | 193   | 139   | 189    | 744   | 162   | 55  | 107 | 79       | 57   | 37   | 1,018    | 232     | 178    | 89      | 80   | 31    | 38     | 134     | 13    | 434       | 78      | 66  | 8    | 4,167 |
| 特別支援学級(院内) | 0   | 157   | 25    | 5      | 10    | 2     | 6   | 4   | 0        | 14   | 6    | 5        | 11      | 0      | 3       | 5    | 2     | 4      | 11      | 1     | 114       | 10      | 13  | 0    | 408   |
| 全体         | 人数  | 8,717 | 207   | 248    | 893   | 201   | 79  | 122 | 122      | 89   | 57   | 1,789    | 304     | 295    | 106     | 105  | 35    | 43     | 268     | 18    | 1,979     | 136     | 419 | 99   | 8,339 |
|            | %   | 8.6   | 2.5   | 3.0    | 10.7  | 2.4   | 0.9 | 1.5 | 1.5      | 1.1  | 0.7  | 21.5     | 3.6     | 3.5    | 1.3     | 1.3  | 0.4   | 0.5    | 3.2     | 0.2   | 23.7      | 1.6     | 5.0 | 1.2  | 100   |

# 小中学校にて分類できない疾患

全病連による  
病類調査

全国病弱虚弱教育研究連盟 「令和3年度全国病弱虚弱教育に関する病類調査」より

小中学校の病弱・身体虚弱特別支援学級担任の回答で不明な疾患の例

- ・単心室症
- ・心臓奇形
- ・食道閉鎖症
- ・社交不安症
- .....etc

病気の子供ってよく分からなくて不安だなあ  
誰か教えて欲しいけど.....



もしかすると

- ・疾患を十分の理解せずに担任している児童生徒を指導しているのでは??
- ・医療や特別支援学校（病弱）との連携が十分にできていないのでは??
- ・病弱教育に関する専門性や実践力が十分に身ついていないのでは??

# 全国病弱虚弱 教育実態調査 (施設調査・ 病類調査)に ついて

## 令和6年度全国病弱虚弱教育実態調査（施設調査・病類調査）について

### 実態調査（施設調査・病類調査）の流れ

- ・両調査は、国の病弱虚弱教育の施策のための基礎となる非常に大切なデータです。
- ・「病類調査」は、都道府県連絡責任校の協力が大切になります。
- ・平成25年度より「病類調査」は、正確且つ各学校の負担が少なくなるよう、特総研の御協力いただき、流れを改善しました。
- ・施設調査は毎年、病類調査は隔年で行います。令和6年度は、**施設調査を実施**します。

### 【施設調査】毎年実施

（令和6年度実施）

- 1 **全病連事務局**は、①②を**各都道府県及び政令指定都市教育委員会特別支援教育担当**へメール送信
  - ① 病弱・身体虚弱教育が行われている学校機関に関する実態調査への協力依頼
  - ② 実態調査用エクセルファイル

\*調査内容は、学校名、住所、病院名等/在籍者数（学部別）、学級数
- 2 **各教育委員会**で入力後、実態調査用紙エクセルファイルを**全病連事務局**へメールで返信
- 3 **全病連事務局**で、全国のデータを集計 <教育施設一覧完成> →10

### 【病類調査】隔年で実施

～施設調査をもとにして～（令和7年度実施）

- 4 **全病連事務局**は、「病類調査の依頼文書」と調査用紙等を**都道府県連絡責任校**へメール送信
  - \*「各都道府県・政令指定都市の教育施設一覧（上記）」も調査基礎データとして送付
- 5 ◆**都道府県立特別支援学校**に在籍する児童生徒の病類調査  
**都道府県連絡責任校**は、教育施設一覧の学校へ「病類調査の依頼文書」と「調査用紙」等をメール送信する。  
 ◆**政令指定都市立・市町村立・組合立の学校**に在籍する児童生徒の病類調査  
**都道府県連絡責任校**は、教育施設一覧の学校の管理者である教育委員会・学校組合へ、「依頼文書の依頼文書」及び「調査用紙」等をメール送信する。
- 6 ◆各学校における児童生徒の病類調査  
 調査依頼を受けた各学校は、5月1日現在の在籍者の病類について調査用紙に記入し、**都道府県連絡責任校**に返送する。
- 7 ◆**都道府県連絡責任校**が県内の調査用紙を回収および内容のチェック  
 教育施設一覧に載っている県内の全ての学校のデータを回収し学校名を削除して**全病連事務局**に送信する。
- 8 ◆**全病連事務局**が全国の調査用紙を回収  
**全病連事務局**は、**都道府県連絡責任校**から送られてきた調査用紙を確認し、**特総研**に送信する。
- 9 ◆**特総研**で、全国のデータを集計し、病類調査結果にまとめる。  
 <病類調査結果完成>  
 特総研は、病類調査結果のデータを**全病連事務局**に送信する。
- 10 ◆**全病連事務局**が、全国病弱虚弱教育施設一覧・全国病類調査結果を編集し**全病連HP**にアップ  
 <関係機関へ発送>  
 文部科学省、こども家庭庁、特総研、全病連加盟校、都道府県政令指定都市教育委員会、その他

全病連による  
病類調査



アンケート結果から様子を聞いてみようかなあ・・・

「Co-」=連携して  
小中学校⇔特別支援学校（病弱）

「令和6年度全国病弱虚弱教育研究連盟 第1回理事会資料」より

# 「Co-」 = 連携して【地域全体で】

全病連による  
病類調査

## 6 各学校（小中学校等）における児童生徒の病類調査

調査依頼を受けた各学校は、5月1日現在の在籍者の病類について調査用紙に記入し、都道府県連絡責任校に返送する。

7 都道府県連絡責任校が県内の調査用紙を回収および内容のチェック  
教育施設一覧に載っている県内の全ての学校のデータを回収し学校名を削除して全病連事務局に送信する。

特別支援学校 ↔ 都道府県名内で病弱教育を行っている全ての学校  
(調査用紙を仲介して連携ができる)



病類調査の結果（エビデンス）に基づいた特別支援学校（病弱）による小中学校への支援や地域の把握ができる





# 災害時における障害のある子どもへの配慮

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/disaster/consideration](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/disaster/consideration)

(研究所Webサイト)



# 心理面での配慮



- 災害はいつまでに続くものではないことを伝える。
- 子どもをひとりぼっちにしない。
- 子どもが話そうとすることはきちんと聞き、何を伝えたいのか理解しようとする。
- 子どもが話したがらない時には無理に話させない。ただし、話したくなったらいつでも話をして欲しいという姿勢を伝える。
- 子どもが話すことを否定しない。ただし、明らかに事実と異なって理解をしている場合には、事実をその子にとって分かるように伝える。
- 今までの生活でできていたことが災害後にできなくなることがあっても焦らず見守る。そして、時期を見て、できるようになるような手立てを考え、伝える。
- 自分が役に立っていると思えるような機会を作ってあげる。
- 症状に改善は見られない場合には、専門家に相談をする。

障害のある子どもにとっては、障害の特性や個々の状態により、さらに異なる不安を抱いたりすることがあるので、その対応が必要になることがあります。

# 医療面での配慮

## ○運動に制限のある子どもへの配慮

自分で身の安全を確保することが難しい場合があり、周りにいる援助者がまず子どもの身の安全を確保

日ごろから車いす用のトイレなどの最低限の緊急時の避難用具を確保

避難所で使用するトイレとして車いすの人も使用できる物を準備

## ○食事に制限のある子どもへの配慮

適切な食事を確保することや、スペースを確保し、必要な加工ができるようにする

## ○常時服用している薬や処置等への配慮

日ごろから予備の医薬品を確保しておくほか、緊急に医薬品を確保できる方法も確認

医薬品の確保とともに、その処置について医療機関と連携しておくことや、必要に応じて病院等に搬送できるようにしておく

## ○医療的ケア等への対応

避難所ではプライバシーに配慮しつつ、医療的ケアを行うことができるスペースを確保

避難所で医療的ケアを実施することが難しい場合、医療機関との連携が必要になるため医療機関との連絡や搬送手段の確保

人工呼吸器などを使用している場合には、電源の確保も重要



# 病気の子供たちが困ってしまうこと、病気の正しい理解

- ・体調が悪く、疲れやすい。
  - ・体格や容姿をからかわれる。
  - ・みんなと別の行動をとらざるを得ないときに、「○○さんだけ、ずるい」などと言われる。
  - ・一日の生活の中で、処置や服薬がある。
  - ・病気の子供は、友達と同じことがしたい気持ちはあるのに、同じようにできない歯がゆさ、もどかしさを感じています。
- 
- ・病気についての正しい理解が必要
  - ・病名だけではなく、気をつけなければならない症状、体調が悪いときの対処のしかた、服薬や処置のしかた、運動や食事の制限などを知っておくことが大切

# 病気の子供や保護者の気持ちの理解について

- ・ 病気の子供や保護者の気持ちを理解することが大切
- ・ 本人が、自分の病気のことをどのように理解しているのか、自分の病気をどう思っているのかを知ることが必要
- ・ 病気や治療への不安のある保護者の気持ちにも配慮が必要です。子供や保護者の思いを理解することは、適切な支援をするために重要
- ・ 「誰に」、「どこまで」、「どのように」伝えるのか、について保護者や子供本人の意向を確かめる
- ・ 友達や周囲の大人への伝え方、他の保護者への伝え方などについて、どのような場で、どの様な言葉で説明するかを、保護者や本人と一緒に考えておく

# 人が密集する避難所等で

- ・電源を必要とする医療機器類のための非常用電源の確保や緊急時の対応について、日ごろから検討しておくことが何よりも大切
- ・電源を確保できない場合の応急的な対応を習得しておくことも大切
  
- ・人が密集する避難所等では感染症に留意する
- ・病気のある子供は、免疫力、抵抗力が低下していることが多く、日常とは異なる状況になると精神的にも不安定になり、免疫力が低下することがある
- ・治療のために服薬している薬との関係で、感染性の疾患にかかった場合に一般的な薬を用いることができないこともある



主催 一般社団法人日本育療学会

# 日本育療学会 第28回学術集会

## 学校等における病気のある児童生徒への支援

### 「ここ」から「みらい」へ

—慢性疾患、精神疾患・心身症、心理面・適応面・行動面の困難、  
不登校、発達障害の二次障害—



## 2024年8月10日（土）



会場：国立特別支援教育総合研究所（集合・対面開催）

### 基調講演

「小中学校等における心理的不適応のある児童生徒への支援-不登校を中心に-」  
常葉大学 特任教授・国立特別支援教育総合研究所 名誉所員 笹森洋樹

### シンポジウム

小中高等学校における病気のある児童生徒への支援：「ここ」から「みらい」へ

演題募集締切 7月10日（水）17：00まで

参加登録締切 8月2日（金）17：00まで

参加費 会費5,000円 非会費6,000円 学生・当事者・家族2,000円

学術集会長 土屋忠之

（国立特別支援教育総合研究所）  
TEL:03-5925-5926 <https://ikuryo2024.wixsite.com/2024>

（一社）日本育療学会第28回学術集会事務局  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 国立特別支援教育総合研究所  
事務局TEL メールアドレス：[ikuryo2024@gmail.com](mailto:ikuryo2024@gmail.com)



後援（学業）  
文部科学省 大塚教育官 ことば部 国守  
種別児童教育委員会 特別支援教育委員会  
特別支援教育委員会 一般社団法人日本小児科医学会  
公益社団法人日本小児科医会 全国特別支援教育研究連盟  
全国特別支援教育学会 特別支援教育  
全国特別支援教育学会（PISA）研究会  
公益NPO法人権利のこども支援の会（NPO）トワーク  
国立特別支援教育総合研究所（NISE）

参加登録はこちら↓

<https://ikuryo2024.wixsite.com/2024>



# 病弱班 研究員

国立特別支援教育総合研究所  
病弱班メンバー

土屋 忠之 (班長)

大崎 博史 (副班長)

嶋野 隆文

ご清聴いただき、ありがとうございました

